

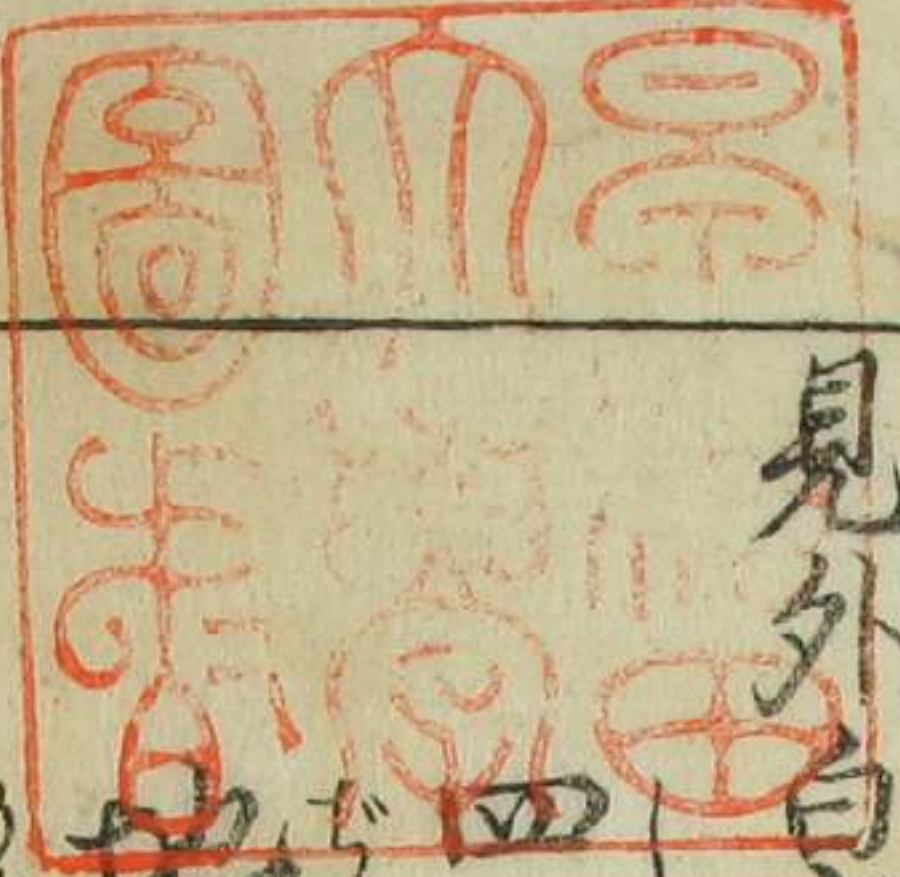


欽定
 四庫全書
 目錄
 卷一

^ 13
 2704
 4



13
270 40



見外白宇留理卷之四目録

地 四 明 洞
儀 石 要 地
天 盤 戶
白 榜 鼻

坪内雄藏
五

白榜鼻

四

見外白宇留理卷之四

四明洞

天狗とてあはるて居るまゝとていふもの
 前代にんを横川水を杖のしゝとていふもの
 楢とて物町ありとていふもの
 物も形く我情とていふもの
 小川とていふもの
 ちりちりといふもの
 活しといふもの
 小川とていふもの



白卷三十四
うらふふ女一若りまゝありとぬん煩う和衣集に
天のくろ福と書り。福ふふふのひはぬくふのうとこ
をさへ福とくまたらにやうり天狗は四糸あふく
れ鼻たうして羽あふりう。又うの根根末わうれ
麻してあゆ細工のやう子天狗あふの首首天狗を
首首首首のうたのめり。ならはあとくは福と
おのひの芥と可げさうらふとく長くとん揚杖
ゆらたら天狗のうく我の害傷あふいふおひして
四明の洞(龍形)巖上は危険して彼を引傷ひつて
切よを母坂のうとくとこれと三十余れ傷也心ま

まあに八介天狗候といふ事。何よ大蛇候一
あり。比傍まといらあ我三子大子世界とたのく
とく未地震とすのめ。利茂とあう社喜念
なれとねし玉坂八介天狗一うり飲してそのま
空中(龍)地震とんともう四の洞(龍)下
とく都又僧あとのいこみふこんぐう喜なると
てま。その神仏はあは教も久ち漢まし。由とた
れしくすく。何の洞。越くみま。巖上は傷正切白
髪うら老翁。化し湖水とやう先惚然り傷入可ぬ
いと思ひ礼ねとを痛んぬいれ汝と待るまし



今昔の地はあつたがごとし。地は地表のしげとまゝに
やううりすん水もそと居るごとし。地は地表のしげとまゝに

地儀

天を西祿のどく地はねどれどくにしてる人の下
小大ある能わく物くそに社がはゆきを地儀
と名有くそ海えしる名多し中くそゆれあふ地
ど地くそあひ印のわくふして中にあつてあつて
どくより物くそしるあ其地くそあよ川はつと
あふりあつたさういふまにさういふまに
山一分田とくよ遠いはしそ遠くこのの、地は天のく

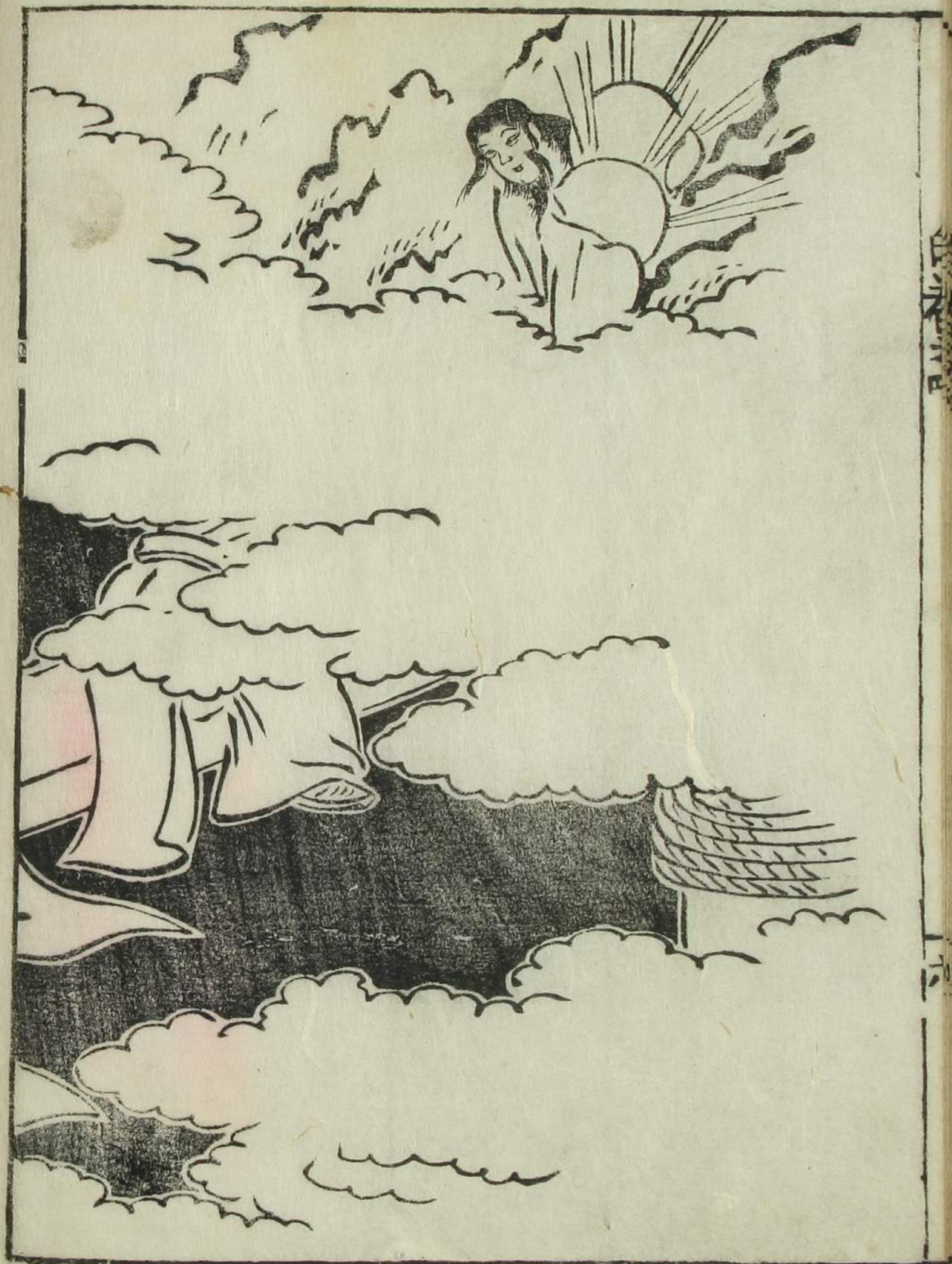
大日本國かろ。地の形は中々山嶽まじり故よ
かくれ都とほくもさう。以来は四方異國はく
小天も所々有るも中々地とさうの中はつ
そとあつてあつて。地とさうあつてあつて
て本とあつてもあつてあつて。さういふは天の
といふも唐天竺はくあつてさういふとあつて
ひる。あつてあつてあつてあつてあつてあつて
天とさうあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

本も様もいふ天(一)石はやうらびのた(一)なるもの
おとく成るまじれとあどたよ(一)地を何(一)でも
はてめり地(一)下(一)まり。為物(一)さ(一)くすれ(一)お(一)水(一)ふ
ほき(一)は(一)く(一)あ(一)く(一)を(一)れ(一)石(一)の(一)地(一)は(一)成(一)る(一)高(一)空(一)より
海(一)日(一)本(一)れ(一)今(一)日(一)と(一)美(一)事(一)の(一)今(一)日(一)の(一)同(一)も(一)の(一)ま(一)い(一)と(一)は(一)同(一)是
く(一)あ(一)ど(一)の(一)ち(一)ら(一)ん(一)の(一)地(一)日(一)本(一)れ(一)中(一)に(一)く(一)く(一)東(一)の(一)め(一)ち(一)と(一)西
の(一)系(一)り(一)の(一)六(一)六(一)余(一)程(一)遠(一)き(一)を(一)て(一)勢(一)う(一)に(一)ひ(一)し(一)は(一)よ(一)くれ
ふ(一)し(一)は(一)ね(一)く(一)く(一)く(一)く(一)と(一)き(一)ぶ(一)く(一)し(一)

要石

ぬ日月(一)い(一)す(一)せ(一)く(一)ふ(一)の(一)と(一)く(一)重(一)う(一)決(一)利(一)と(一)ま(一)め

と勢(一)し(一)の(一)を(一)指(一)の(一)さ(一)れ(一)よ(一)日(一)と(一)月(一)と(一)く(一)く(一)を(一)付(一)方(一)さ(一)
れ(一)雷(一)之(一)の(一)左(一)鉞(一)の(一)捨(一)と(一)れ(一)と(一)表(一)し(一)く(一)に(一)く(一)し(一)も(一)
指(一)の(一)も(一)つ(一)と(一)し(一)て(一)日(一)輪(一)の(一)方(一)に(一)の(一)し(一)を(一)遠(一)く(一)月(一)輪(一)を
方(一)に(一)桂(一)の(一)木(一)を(一)ば(一)さ(一)る(一)地(一)に(一)ゆ(一)り(一)し(一)て(一)申(一)に(一)あ(一)る(一)事(一)と
あ(一)く(一)あ(一)る(一)ゆ(一)南(一)れ(一)く(一)う(一)り(一)地(一)の(一)真(一)中(一)へ(一)あ(一)ん(一)ぬ(一)と(一)ま(一)ん(一)の(一)指(一)
と(一)く(一)し(一)込(一)り(一)も(一)指(一)る(一)ゆ(一)の(一)標(一)の(一)と(一)く(一)に(一)よ(一)と(一)も(一)有(一)
と(一)あ(一)る(一)ゆ(一)の(一)日(一)月(一)乃(一)指(一)と(一)し(一)あ(一)く(一)ま(一)い(一)と(一)事(一)と(一)ま(一)指(一)
お(一)教(一)う(一)ら(一)り(一)も(一)穴(一)あ(一)る(一)を(一)あ(一)れ(一)夜(一)より(一)の(一)才(一)に(一)日(一)か
長(一)く(一)成(一)中(一)に(一)刻(一)と(一)に(一)せん(一)と(一)を(一)て(一)穴(一)成(一)と(一)く(一)る(一)も(一)
了(一)れ(一)よ(一)う(一)く(一)た(一)才(一)よ(一)日(一)乃(一)方(一)を(一)く(一)め(一)う(一)し(一)あ(一)ら(一)う(一)し(一)



ねくせきをちくくしてつたわがむかむの十日は
 人百でいんごの刻むのつえきさくまをたさ
 よぬぎ十五日の午時のつえきさくまをたさ
 ぶしめぬよ。満くつたつたより又つたよりけり
 神のつえきさくまにすまやうとつたよ。つたよ
 百家よりまたましくつたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 さゆのつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 依る日輪ひびくつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 虹身またつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 花身とつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ

いひくくまをたさのつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ

天盤戸

日蝕月蝕とつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 小より。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 法天若神ぬつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 ねくつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 十分つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 太神つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ
 ひつたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ。つたよ

萬の神を連神也と云ふは是れも由の筈に日月の光
本の亦(集)つたはと云うは是れの中いひはるゝと
わづらひはとと一と云うは由の字讀ありしと云
大神の友の神を方と云ふは是れも由の筈に
付てあり日月と云ふは是れも由の筈に
是れは神の友の神を方と云ふは是れも由の筈に
先をかくりては是れも由の筈に
まゝと云うは是れも由の筈に
あはれ何れも日月と云ふは是れも由の筈に

是れは神の友の神を方と云ふは是れも由の筈に
先をかくりては是れも由の筈に
まゝと云うは是れも由の筈に
あはれ何れも日月と云ふは是れも由の筈に
白(悟)鼻
いと誠しやうふと云うは是れも由の筈に
らるる天下に云ふは是れも由の筈に
まゝ不動明と云ふは是れも由の筈に
江と神をかくりては是れも由の筈に

とんずれにまふりつて勝して...
く鼻がらふりかるとする僧正坊し庵室...
てゆて病が集り入ると扱ひつる毎を七行とぬ身
ものやとれども不御役もなまびらうのう今此位
師も今年中にいれぬとて中まへしとてあつとて合して
き酒のかんせうとてあつとてあつとてあつとてあつとて
中へいれ

見おのう留利まきう回

